前田　正史

中村　崇

問題物質の水を介した循環について勉強する

水と生態間の問題物質の循環　RC-43

1.代表幹事

前田正史（東京大学 生産技術研究所 教授）
中村　崇（東北大学 多元物質科学研究所 教授）

連絡先

木瀬真理子（前田研究室 共同研究担当）
Tel　：03-5452-6297
Fax　：03-5452-6299
e-mail：kise@iis.u-tokyo.ac.jp

2. 主旨

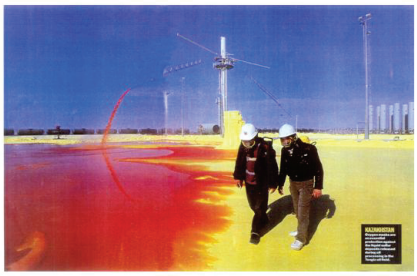
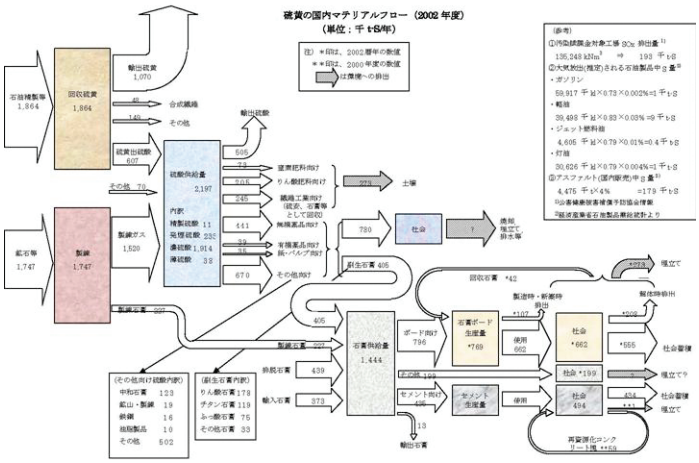
製品の製造過程では、副産物が必然的に発生する。製品を使用する過程においても様々なエミッションが発生する。製品の寿命が終了した後、これを再利用するために整備調整し、あるいは解体する場合においても、再利用可能な部品・材料を回収したあとには残査がのこり、多くは経済的価値のない、あるいは負の価値を持つ不要物と見なされる。

循環型を意識した現代社会では、製造プロセス（誕生）、その製品寿命の間（一生）、また寿命終了後（永眠）の各プロセスにおいて、もし問題物質が発生するのであれば、その詳細を明らかにし、社会的に容認される形で処置することが必要である。そのような社会的解決がない限り、直列的に連鎖している物質の流れは、どこかで我々の認知不可能な形で放置されることになり、結果的に未来の危険が高まることになる。

本研究会では、たとえば微量有機有害物、少量有害物質、中量被汚染循環物（有害物を運ぶ担体）、大量工鉱業副産物として次のような物質を対象に考える。これらの物質の水を介した生態への循環について議論する。

微量有機有害物例：PCBsを含むダイオキシン類、環境ホルモン（内分泌撹乱化学物質）
少量有害物質例　：重金属（カドミウム、クロム、水銀、鉛）、
　　非金属（砒素、セレン、アンチモン）
工鉱業副産物例　：硫黄化合物、フッ素化合物

3. その他

年会費　　：30万円
定　員　　：およそ10社まで
運用方法　：年2～3回の研究会を開催する

カザフスタンの石油精製工場から製造される溶融イオウ